



ある運輸職場での出来事

乗務の直前に「指導」と称してパワハラ？

6月21日、日勤乗務を終了した組合員は、「乗客から苦情が上がっている」と管理者から伝えられ、1時間以上の事情聴取と指導を受けました。翌日、13時30分過ぎに出勤し、点呼掲示を記入していたところ、前日とは違う管理者から「乗務点呼後に来るように」と指示されました。乗務点呼を終え、管理者を訪ねたら「奥(別室)でちょっと指導したい」と言われましたが、乗務開始時刻が20分後に迫っていた為、組合員は「乗務の寸前はやめて貰いたい」と断りました。すると管理者は突然、前日の苦情の内容とは全く関係が無い「(乗務)カバンを見せて」と言い、2人でカバン置き場に向かいました。

組合員のカバンには、娘さんから「信号を見るように」とプレゼントされた信号機の形をしたキーホルダーを「御守り」としてつけていましたが、そのキーホルダーを掴み「後で外すように」と管理者は命令しました。納得がいかない組合員が「何故、自分だけなのか？」と語句を強めて尋ねたら、「〇〇への指導だから」と一言で済まされました。一連のやり取りを見ていた周りの社員も、「あれはひど過ぎる…」とっています。

この「指導」により、乗務に集中出来る状態では無いと思い、組合員は当直助役に代替乗務員の手配を要請します。「指導」した管理者は組合員に対して、気を落ち着かせて乗務をするように促しますが、その過程で「**このまま乗務をしなかったら〇〇君の人生を左右するような事になりかねない。**」と、驚くべき言動を行いました。気を落ち着かせるどころか、組合員を脅迫する言動としか思えません！

その後、代替乗務員が手配出来た為、組合員は結果として年休となりましたが、副区長は「みんな〇〇君の為にやっている。」となだめるように言ってきました。

乗務の直前に「指導」と称した管理者のパワハラにより、組合員は乗務に集中出来なくなりました。そのような状態に追い込んでおきながら「〇〇君の為に…」と言われても、何の説得力もありませんし、安全・安定輸送を担う拠点職場である運輸職場で、この様な事象が発生すること事態が異常です！

安心して働ける職場を守る為に、輸送サービス労組はあらゆるハラスメントを許しません！

JR東日本輸送サービス労働組合 横浜地本主催緊急集会
7月5日(月) 12時30分～ 磯子公会堂・会議室1

多くの組合員の皆さんの結集をお願いします！